

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和8年2月20日（金） 15：00～ 16：00

場所：校長室

出席者：

学校運営協議員：宇佐美和美（寝屋川市立第十中学校長）、雲川真美（PTA会長）

石田華織（寝屋川地域教育協議会会長）

田中啓昭（社会福祉法人大阪誠昭会理事長） ※敬称略

本校：浦校長、辻教頭、井上首席、岩田首席、田中教諭、中川事務長

1 開会

- ・規定により参会人数の確認を行い、開会した。

2 学校長あいさつ

- ・前回同様、今年度の振り返りと結果報告、次年度（令和8年度）の学校経営計画提出を目的とする旨の説明があった。

3 進路指導について

- ・授業満足度：目標（85%以上）を達成。
- ・進路肯定率：目標（85%）を達成。3年間を通じた段階的な提案・個別面談等を継続。
- ・学力テスト：基礎学力の未定着および家庭学習時間の不足が課題。
- ・大学進学：難関・中堅私立大学への進学（延べ人数）が増加。12月1日時点で延べ90名。
- ・自習室・図書室の利用増、各種検定の受験者増を確認。次年度は検定受験率の向上を図る。

4 学校行事について

- ・部活動加入率の低下が課題。
- ・合唱コンクール等の日程は、負担軽減と生徒の取組意識向上を目的に見直し予定。
- ・近隣大学との連携により新たな部活動の確立をめざす。

5 生活規律の確立

- ・遅刻者数は昨年度より約700件減少。挨拶が定着。
- ・来年度より生徒指導室に常時教員を配置予定。

6 人権教育の推進

- ・生徒の人権意識は向上。
- ・韓国修学旅行の実施にあたり、日韓の歴史を含む人権研修を実施予定。

7 生徒支援関係について

- ・生徒相談委員会を週 1 回実施。
- ・来年度より保健部と生徒指導部を合併し「生活指導部」として分掌改編を行う。

8 高大連携

- ・大阪女学院（国際英語学部・韓国語）と来年度から連携を開始予定。

9 国際交流事業について

- ・インターンシップの活用や受入れを実施。
- ・ALT による英語カフェを開催。肯定的回答は 90%。
- ・韓国高校の訪問受入れ（令和 8 年 5 月 11 日（月）午後、2 年生約 160 名来校予定）。
- ・19 期生が 2 年生になるタイミングから修学旅行を実施。

10 環境事業整備

- ・美化に関する肯定的評価が上昇。
- ・食堂・廊下の LED 交換等を実施。
- ・大阪府の事業で実施：
 - ①食堂食事場所・厨房へのエアコン設置（約 800 万円）
 - ②体育館のエアコン
 - ③普通教室および廊下のリニューアル（1 学年 200 万×3 で最大 600 万円）を計画。

11 地域連携

- ・自治会・地域行事への参加回数が増加。
- ・サッカー部による臯杯の開催、ダンス部の私立コリア中高との交流、保育園・幼稚園等との交流を実施。

12 教職員の研修について

- ・教科指導力向上を目的とした校内研修、人権研修を実施。
- ・伴走型支援研修は来年度から 4 年間かけて実施予定。
- ・他校と交流しながら研修を進める。

13 働き方改革

- ・伴走型支援等により、本校は先行して取組を実施。
- ・過労死ライン超過者は 0 名となった。年次有給休暇・育休の取得率が上昇。
- ・会議時間は大幅に削減。長時間勤務は減少傾向（大阪府平均 39 時間に対し、本校 30.8 時間）。
- ・部活動は今後 3 年をかけて改革を継続。

14 広報活動について

- ・パンフレットのリニューアル、地元広報誌の活用を含め、チラシ1,000部を作成・配布済み。
- ・学校説明会の理解度アンケートでは99.7%が理解できたと回答。
- ・中学校訪問の時期・回数工夫、学習塾との連携強化を進める。

15 意見交換

(1) 学校環境・美化について

- ・学校がきれいになることは、生徒だけでなく保護者にとっても気分が良く、学校への印象も大きく変わる。
- ・食堂の改善やクリスマス会などの催しも含め、学校が「開かれる場」であることは非常に重要。
- ・地域の方と連携できる学校であることは価値が大きい。
- ・施設管理（鍵）が当たり前になってきているが、地域と学校のつながりを維持することが求められる。

(2) 公立学校の役割・特色づくりについて

- ・昔は学校教育法の影響で「公の教育」がメインだったが、無償化等の流れで再び状況が変化してきた。
- ・公立学校として、進学校とは異なる「公立ならではの特色」を出していく必要がある。

(3) 公開行事と教育の連続性について

- ・公開保育など、単発の場面だけで評価されるのは本質とは異なる。
- ・修学旅行も「行くだけ」ではなく、事前学習や地域連携につながっている点が素晴らしい。
- ・校長先生の熱量から、学びの連続性を大切にしている姿勢が伝わった。

(4) 組織運営とリーダーシップについて

- ・組織はフェーズによって必要なリーダーシップが変化する。
- ・一時期は「ティール組織（リーダー不要）」が流行したが、今は校長先生がリーダーシップを発揮し、次の段階へ向かう過渡期だと感じる。
- ・講師に依存しない組織づくりをめざすべきであり、その中で学校の“らしさ”や特色が形になりつつある。

(5) あいさつの浸透・学校文化の変化

- ・「必ずあいさつしてくれる」という点に多くの人々が強く共感していた。
- ・「学校が変わった」という意見が多く聞かれた。
- ・校長先生の特色 → 教員の特色 → 生徒の特色へと、良い影響が連鎖している。

(6) 地域からの評価と生徒の成長

- ・今年度は苦情よりも、地域の方からのお褒めの言葉が多かった。
- ・人間性の涵養が進んでいると評価されている。
- ・学歴はパスポートではあるが全てではない。家庭教育が脆弱化する中、学校教育の役割が一層求められている。

(7) 指導のあり方・「考えさせる」教育

- ・社会基盤や集団の中で生きるうえでの指導は必要だが、「ねばならない」「マスト」を減らし、教え込みすぎないようにしている。
- ・世の中でどう生かすかを考える練習（意志表明・思考の練習）が重要。
- ・校長先生の話その視点を聞くと非常に納得でき、多くの学びにつながった。

(8) 教員と生徒の意識変容

- ・教員自身は気づいていないかもしれないが、意識が明確に変わってきている。
- ・教員の意識改革が生徒の意識変革につながる好循環が生まれている。

(9) 学校が目指す姿・生徒の幸福

- ・生徒が失敗しても、その状況から「潤うような」教育環境を作りたい。
- ・先生たちも楽しく、やりがいを感じながら働ける学校にしていきたい。

(10) 高校生の地域実習（夢体験）と福祉教育

- ・福祉に対するハードルが高いため府社教が行っている「5日間の夢体験」などの体験を通してその壁を下げたい。
- ・おむつ交換・沐浴・授乳など、母子手帳交付時に学ぶ内容を授業として体験させ、福祉を生活レベルへ落とし込みたい。
- ・大学・養成校が減る中で、福祉の担い手を増やしていきたい。

(11) 日本版 DBS（性加害防止）と実習への影響

- ・子どもと1対1で関わる仕事などは DBS の対象となり得る。
- ・実習の運営方法によっては対象に含まれる可能性もあるため慎重に運用が必要。ただし法律を適切に乗り越えて実施できれば、実習は非常に価値ある学びになる。

(12) 今後への期待・方向性

- ・まだまだやりたいことが多く、生徒が楽しい学校生活を送れることが第一。
- ・卒業後の人生・進路保障も含めてサポートしていきたい。
- ・相互理解とつながりを目標として、学校の魅力化・差別化・区別化をさらに進めていく必要がある。